

19年度の主な建設事業



▲①オニオンタワー建設工事 ②倭文小学校耐震補強・大規模改造工事③沼島地区ヘリポート設置工事

一般会計

259億6,688万円 (18年度比-4.2%)

市民一人当たりに使ったお金に換算すると・・・ → 49万979円

※19年度末住民基本台帳人口52,888人で算出

民生費(+5.1%)	53億1,359万円	20.5%
公債費(+0.2%)	47億4,631万円	
総務費(-6.2%)	44億6,155万円	18.3%
教育費(-31.6%)	23億1,858万円	
農林水産業費(-11.8%)	23億1,313万円	17.2%
衛生費(+9.0%)	18億4,499万円	
土木費(-12.0%)	17億3,407万円	8.9%
消防費(+6.5%)	9億6,988万円	
商工費(+5.5%)	6億 259万円	7.1%
議会費、災害復旧費 労働費、諸支出金 (+20.0%)	16億6,219万円	
		6.4%
		6.7%
		8.9%
		8.9%
		17.2%
		18.3%
		20.5%

()内は、対18年度比

健全化判断比率(速報値) (単位:%)

指標	南あわじ市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率 (普通会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率)	-	12.77	20.00
連結実質赤字比率 (全ての会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率)	-	17.77	40.00
実質公債費比率 (借金の返済額等の大きさから資金繰りの危険度を見る比率)	19.9	25.0	35.0
将来負担比率 (市が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度を見る比率)	245.5	350.0	-

※赤字が生じない場合は、「-」と表示

資金不足比率(速報値) (単位:%)

指標	南あわじ市	経営健全化基準	備考
資金不足比率 (企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度を見る比率)	-	25.0	会計毎に算定

※資金不足が生じない場合は、「-」と表示

歳入では、所得税から市民税への税源移譲で、市税が3年ぶりに増収。一方で、地方交付税は減収となりました。また、松帆小学校の改築工事の完了など、各種建設事業での事業費減により、国庫・県支出金が減少しました。市の借金である「市債」は、小中学校改築に伴う借入れは減少したものの、地域振興基金に積み立てるための新規借入れなどで増加しました。歳出では、限られた財源の中、「選択と集中」による経費削減を徹底しながらも、子や孫たちが夢を持てるまちと

なるよう、少子対策や防災対策、職(食)づくりなどに積極的に取り組みました。19年度は、市内全域でのケーブルテレビ整備が完了し、県下の他市町に先駆け小中学校の耐震化を進めました。昨年4月には、少子対策課を新設し、在宅子育て支援事業やハッピーマジック事業など、子育て支援や結婚促進、定住化促進に取り組みました。また、市債で3億992万円の繰上償還を行い、将来世代への負担軽減に努めました。

平成19年度 決算状況報告

19年度の一般会計の決算額は、歳入264億2,980万円、歳出259億6,688万円で、20年度への繰越財源3,193万円を差し引き、4億3,099万円の黒字となりました。ただし前年度からの繰越金や財政調整基金の取り崩しによる補てん分などを除くと、3億6,253万円の赤字となっています。

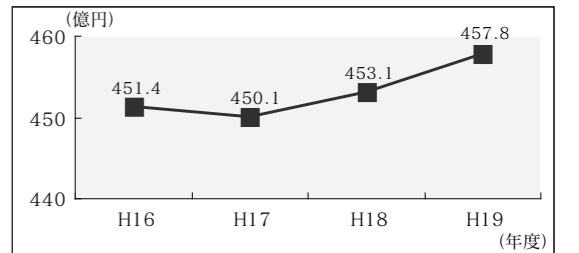
歳入 264億2,980万円 (18年度比-5.7%)

29.7%	地方交付税(-3.6%)	78億4,791万円
23.7%	市税(+6.9%)	62億6,497万円
16.5%	市債(+4.1%)	43億5,780万円
6.6%	県支出金(-14.7%)	17億5,327万円
4.7%	国庫支出金(-14.6%)	12億4,633万円
4.4%	繰入金(-11.2%)	11億7,433万円
3.6%	繰越金(-20.7%)	9億4,269万円
10.8%	その他(-25.6%)	28億4,250万円

()内は、対18年度比

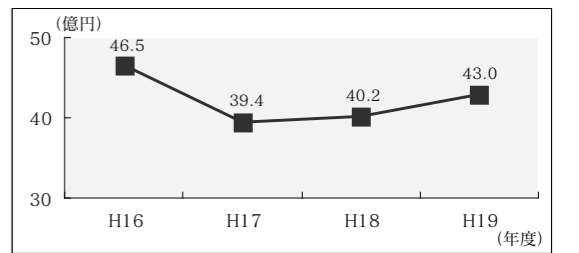
市債(借金)残高の状況

19年度末 市民1人当たり
一般会計市債残高 457億7,546万円 86万5,500円



基金(貯金)残高の状況

19年度末 市民1人当たり
一般会計基金残高 42億9,601万円 8万1,200円



この決算状況を「月収30万円の家計」に例えると・・・

収入		支出	
給与	30万円	ローンの返済(公債費)	8万2,000円(+200円)
うち基本給	25万2,500円(-1万7,100円)	食費(人件費、退職金含む)	7万8,800円(-1,300円)
諸手当	4万7,500円(-1万1,400円)	医療費(扶助費)	4万700円(+2,800円)
前月からの繰越金(繰越金)	1万6,600円(-4,300円)	光熱水費や通信費など(物件費)	5万2,900円(-1,200円)
親からの援助(国・県支出金)	5万2,800円(-9,000円)	家・車・電化製品の修理や買換え(維持補修費、普通建設事業費)	8万7,200円(-2万9,300円)
銀行からの借入(市債)	7万6,600円(+3,000円)	交際費・子どもへの仕送り(補助費、貸付金、繰出金など)	9万1,400円(-1,000円)
貯金の取り崩し(基金繰入金)	1万8,900円(-800円)	貯金(積立金)	2万3,700円(+1万円)
計	46万4,900円(-2万8,200円)	計	45万6,700円(-1万9,800円)

●義務的経費 南あわじ市 44.1%

来月への繰越金 8,200円(-8,400円)

毎月の出費が約46万円。月収30万円では足りません。不足分を親からの援助や銀行からの借入、貯金の取り崩しでまかなっています。

これが多いと、一般家庭のエンゲル係数が高いことと同じで、家計にあまり余裕がないことを意味します。